

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2016年5月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第574号

昨年五月号の本誌で報告しましたように、昨年六月から東京西早稲田にある日本キリスト教会館の耐震改修工事が進められて来ました。このほど工事はすべて完了しましたので、ごく簡単にこの間の経緯を報告することとします。

日本キリスト教会館は、一九七〇年に竣工し、日本基督教団を初めいくつもの教団本部、またキリスト教社会事業などの各団体が入居して、この国におけるエキユメニカル・センターとして用いられて来ました。地上七階、地下一階、総面積四三四五㎡の施設です。日本クリスチャン・アカデミーは、一九九九年に日本YMCA同盟から、六階全フロアーと七階の一部、その他を譲渡されています。以来、関東活動センターのプログラムその他、早稲田奉仕園に委託して貸会議室としても広く利用されて来ました。この間、クリスチャン・アカデミーの諸活動は、その収益によって支えられて来たと言っても過言ではありません。

二〇一一年三月の東日本大震災を機に耐震検査をしたところ、築四〇年で、建築基準

も厳しくなったこともあって、耐震補強が必要と判断されました。新築案も検討されましたが、新宿区の条例で高さ制限が設定されており、新築の場合は五階程度しか許可されません。そこでヴォーリス設計事務所にて設計管理を、株式会社佐藤秀に施工を依頼し、総工費二億七五〇〇万円

も厳しくなったこともあって、耐震補強が必要と判断されました。新築案も検討されましたが、新宿区の条例で高さ制限が設定されており、新築の場合は五階程度しか許可されません。そこでヴォーリス設計事務所にて設計管理を、株式会社佐藤秀に施工を依頼し、総工費二億七五〇〇万円

日本キリスト教会館耐震改修工事完成

財団理事・関東活動センター運営委員長

戒能 信生

をかけた全面的な耐震改修工事を実施することにしたのです。

耐震補強については、大きなブレースや耐震壁を必要とされる個所に入れるなどして強度を増し、また老朽化した電気設備、給排水設備などをすべて改修し、漏水対策や外壁の補修などにも手を尽くし

ました。工事中の騒音問題など、近隣対策にも苦慮しましたが、様々な困難を乗り越えてここに耐震改修工事がすべて完了したのです。

何より困難であったのは、この会館を所有する一〇のオーナーの意志一致です。それぞれ財政事情も異なり、一致協力して工事を進めるためには様々な困難がありました。しかし管理組合のもとに設置された工事委員会が毎週開催

され(全部で五〇回!)、合意形成と協力強化に努めました。その結果、管理組合で積み立ててきた約八〇〇万円、借入金八〇〇万円(今後一〇年間で返済予定)、残りの一億一五〇〇万円は、各所有団体が負担することになりました(当法人の負担額は約二七〇〇万円)。

三月二八日に行われた工事完了の感謝礼拝には、工事関係者や各団体の代表者が集



耐震強化ブレースのいった一階



各階にブレースと耐震壁が設置された

い、工事の無事終了を報告するとともに、新生キリスト教会館の再出発を祝いました。

今後とも、このキリスト教会館を用いてのクリスチャン・アカデミーと関東活動センターの働きをお覚え下さい。

(日本基督教団千代田教会牧師)

関東活動センター

「古典で読む20世紀第Ⅲ期」が始まりました
第1回丸山真男「超国家主義の論理と心理」

会場 日本キリスト教会館6階フォークトルルーム
2016年5月13日(金)

一昨年より続けてきた「古典で読む20世紀」の第Ⅲ期が、去る5月13日(金)18時半から「耐震強化リフォーム」を終えたキリスト教会館6階のアカデミー事務室を会場に行われました。

昨年度取り上げたのは、「サルトル」「レーニン」「R・カーソン」「K・バルト」で、文字通り、20世紀の第二次世界大戦から、戦後世界に大きなインパクトを与えた思想家、神学者、哲学者を取り上げました。

第Ⅰ期の主題はヴェーバー、マルクス、ニーチェ、キルケゴールでしたから、ここでは、20世紀を動かしたとはいえず、本人たちはいずれも、19世紀に活躍した人々です。このように見ても、一口に20世紀と言っても、グローバルな観点からいえば、とても大

してはいますが、それには「戦後」70年をもちたらしめたあの戦争を、正面から取り上げる必要があるはず。しかし、そこは都合よくスキップして「歴史を修正」して「未来志向」などというのではしよせん無理な話でしょう。

70年前とそれに先立つ時代に何が起こったのか、を戦後多くの知識人が自らの課題として、思想をつむぎ、展開してきたのはまぎれもない事実です。

第Ⅱ期の最後にエクストラの企画で、明治学院大学で、キリスト教を担がれている工藤宜延先生が「E・フロム」をとり上げてくださいました。

(一月)これは、かつて日本の盟友であったドイツの、とりわけユダヤ系の知識人が、それぞれの畢生(ひつせい)の課題として、あの悲劇、あの暴虐の原因を突き止めなければ、生きていけなかった状況の一端を指し示すものでした。

ひとことといえばそれは「権威主義的パーソナリティ構造」ですが、フランクフルト学派の課題はまさに「戦争とそれを起こしたもので、それは「クリスチャン・アカデ

ミー」の成立原因そのものだったはず。

戦後70年、ちょうど日本の近代化からの折り返し点に立ついま、戦後日本を振り返ったときにもう一度「丸山真男」から始めてみようと考えました。それも今回は今までと異なり、一回に、ひとつの作品を取り上げることで、4回にわたってそれぞれの時代の丸山の変化をたどるつもりです。

もちろん原点ともいべきあの「昭和」の絶望を真正面から受け止めた丸山を軸にそのほかの動きが「星座的配置」(アドルノ)ができればしまいかという、大それた野心も少しはありました。

たまたまですが、今年、丸山逝去20年ということ、巷(ちまた)にはかつては高価だった丸山の諸著作が複数の文庫版で手に入りますし、ハードカバーの丸山真男集、丸山真男語文集、や、丸山

真男座談といった今まで一部の人が読めなかったものが次々に出版されています。岩波新書や中公新書などでもそれぞれに「丸山」本を出版しておりちよつとした丸山ブームと言えそうです。

流行にあやかるといってはさらさらなのですが、いまは、歴史の節目の状況で、「過去に目を向けることによって、未来を展望する」べき好期(カイロス)であるといつてもよいでしょう。

なかなか、参加者の増えない企画とはいえ、それでも昨年度よりは微増です。丸山に多くの方にふれていただくと思惑もあって、今年「出前」を考えており、すでに、横浜と鎌倉のYMCAでは企画を具体化しています。

第一回は、丸山のマスコミへのデビュー作ともいえる「超国家主義の論理と心理」を取り上げました、1946年に出版され本人も驚くほど飛ぶように売れた本論文は、まるで昨日書かれたもののようでした。歴史はまさに、70年前に戻りつつあるといつて差支えないでしょう。第2回は7月8日(金)『日本の思想』(岩波新書ほか)です。

企画に参加しない人にも是非読んで欲しいものです。いまの政治家もせめてこのくらい古典は読んで欲しいものです。(フアシリテーター、アカ

デミー関東運営委員 武田利邦)

関西セミナーハウス活動センター

●2015年度 修学院フォーラム「社会」第2回

「キリスト教徒の良心と現実の政治の間で」

作家・元外務省主任分析官 佐藤 優さん

2016年1月30日(土)



佐藤氏は、キリスト者が具体的社会問題にどう係るべきかについて、外交官としての長い経験と、深い神学的造詣に基づいて、次のように語った。

キリスト教的良心は、他の個人的あるいは職業的良心と必ずしも一致しない。キリスト教的良心とは、イエス・キリストを救い主と信じることである。しばしばキリスト教徒として、原発に反対しなければならぬと、安保法制

に反対しなければならないと言われるが、キリスト教的良心と政治的立場はストレートには繋がらない。

日本のキリスト者の多くは、集団的自衛権に関する閣議決定が行われ、国会で安全保障関連法が成立し、これにより日本が戦争に巻き込まれる危険が増大したと、危惧している。しかし、そうとは言えない。存立危機事態とは何かを決めていないので、自衛隊はかえって海外へ派遣させ難くなった。これに実質的に貢献したのは、公明党である。公明党は、安保法制を使えなくしてしまつた。ここに宗教の力がある。

公明党の母体の創価学会は、今や日本の宗教から世界の宗教に脱皮しようとしている。公明党は組織として創価

学会と一線を画しながら、一方で創価学会の精神を政治に生かそうとしている。創価学会は、すでに韓国で150万人の信徒を得、今や中国にも進出しようとしている。韓国や中国と平和な関係を維持して行くことが仏教徒としての責務である。ここに、公明党が安保法制にくさびを打ち込んで使えなくした動機がある。

さてそれではキリスト教は政治とどんな関係を築いてきたか。影響力を持った優秀な神学者の過ちについて考えてみたい。ドイツ、ゲッチンゲン大学のプロテスタント神学部の教授だったエマニュエル・ヒルシュ(1888-1972年)は、1933年に「ドイツキリスト者の教会的意思」を出版し、プロテスタントの聖書のみという考え方は時代に適合していない、聖書と並んでその時代の掟を重要視し、ドイツ民族と結びついた、ドイツ民族を代表する教会が必要だ、アリア人種によるドイツキリスト教を作る必要がある、と主張した。これが、当時のドイツキリスト教の主流になった。キリス

ト教や教会が宗教と直接結び付くところという結果を生む。同様の例は、他の国にも見られる。プロテスタントイイズムは魂のインフレーションを誘発し、自己絶対化を招きやすい。

今日の日本においては、信仰告白の事態は存在しない。安全保障法問題は、擬似問題である。それを信仰告白の事態だと誤解してはならない。

それでは、キリスト教は政治とどう係るべきか、東ドイツ、フンボルト大学の神学者ハンフリット・ミュラーは、次のように言っている。「キリスト教的国家と言うものは存在しない。しかし、キリスト教徒が自らの信仰的良心に基づいて、政治に関与することは有り得るし、望ましいことである」。チェコの神学者フロマート力は、「教会とこの世の間には、目に見えない境界線は存在しない。教会は、この世のあらゆる問題と係る。相手がクリスチャンかどうかに関係なく、自分の信仰は、他者との関係において証されねばならない」と言っている。

従って、政治的問題に関し

て重要なのは、今起きている問題の内在的原因は何なのかを見極めることと、その上でキリスト教徒としてどう行動するべきかを判断することである。

この発題後、休憩を挟んで2時間に亘って質疑応答の時を持った。多数の質問が紙に書いて出され、佐藤氏はそれらの質問に順に応え、さらにフロアーからの質問にも答えられた。それでも、会終了後のアンケートには、時間が足りなかったという感想が寄せられた。

参加者は73名の多数に上つた。多くの参加者にとって、刺激的な会であった。



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2016関東フォーラム 今日的課題I**

「いのちを考えるー命の現場とキリスト教ー」(全5回)

第1回「キリスト教といのち」

講師：賀来 周一さん(キリスト教カウンセリングセンター理事長)

日時：2016年6月6日
14:00~16:00

第2回「死生学から見た自殺の問題」

講師：齋藤 友紀雄さん(日本自殺予防学会理事長)

日時：2016年7月4日
14:00~16:00

会場：日本聖書神学校

参加費：1回2,000円

■**2016関東フォーラム宗教対話II**

「『ことば』を届けるために礼拝のためのボイストレーニング」(全6回)

講師：友野 富美子さん(日本キリスト教団八王子栄光教会担任教師、声優)

日時：6月6日~7月11日、
毎週月曜15:00~17:00

会場：日本聖書神学校

参加費：5,000円(全5回分)

定員：20名

共催：日本聖書神学校キリスト教研究所

■**聖書講座2016「新しい聖書の学び」**

「いのちの糧の分かち合い」(全9回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター)

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 **日本クリスチャン・アカデミー**
 代表理事 小久保 正

本部事務局
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館6F
 TEL 03-3207-6198
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
 関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
 TEL 075-711-2115
 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
 関西セミナーハウス活動センター
 TEL 075-711-2117
 E-mail:office@academy-kansai.org

共同ディレクター)
 日時：2016年4月~2017年1月(8月
 除く)第2火曜18:30~20:00
 ◎6月14日、◎7月12日

会場：早稲田奉仕園スコットホール
 参加費：1,200円/学生500円
 テキスト：『いのちの糧の分かち合いーいま、教会の原点から学ぼうー』新教出版社

共催：早稲田奉仕園

■**2016 関東フォーラム 今日的課題 <共催プログラム>**

「『壊憲』状況と戦争法案を撃つ」

講師：小林 節さん(慶應義塾大学名誉教授)

日時：2016年6月21日(火)
18:30~20:00

会場：日本キリスト教会館6階

参加費：500円

主催：戦争をゆるさない東京キリスト者の会

■**2016 関東フォーラム 今日的課題II**

「古典で読む20世紀第III期」(全4回)
 第2回「日本の思想」

ファシリテーター：武田 利邦さん
 (農村伝送神学校講師)

日時：2016年7月8日(金)
18:30~20:30

会場：日本キリスト教会館6階
 フォークトルーム

参加費：500円

テキスト：丸山真男『日本の思想』
 (『丸山真男セレクション』
 平凡社、岩波新書)

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時：2016年6月12日(日)、7月
 10日(日)
 9:00~15:00受付(1、8月を
 除く年10回)

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2016年度修学院フォーラム「いのち」**

第2回「花と音楽のコラボレーション〜いのちをめぐるメッセージ」

講師：竹中 真さん(ピアニスト、作曲家)

日時：2016年5月21日(土)
13:30~15:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：一般2,300円、学生1,000円
 予約「演奏者と語る会」

上記終了後16:00~17:30 お茶代500円

■**2016年度修学院フォーラム「福祉」**

第1回「子どもの貧困~社会的養護の子どもとその支援について考える」

講師：阪野 学さん(大阪成蹊短期
 大学幼児教育学科准教授)

日時：2016年6月11日(土)
13:30~17:00

会場：京都YWCA

参加費：一般1,500円、学生500円

共催：京都YWCA

■**2016 年度お茶のころと宗教のころ-1**

「初夏の茶室とバスで巡るフィールド
 ツアー <2>

京都のキリシタン史跡を訪ねて<西ノ京エリア>

講師：杉野 榮さん(日本バプテ
 スト連盟京都洛西教会協力
 牧師)

日時：2016年6月18日(土)
10:00~17:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：一般8,000円(抹茶、昼食、
 バス代負担分、保険代含む)

定員：20名

■**2016 年度お茶のころと宗教のころ-2**

「聖書をいっしょに読みましょう」
 (全5回)

座長：榎本 栄次さん(日本基督
 教団牧師)

日時：2016年6月~11月(8月除
 く)第1水曜13:30~16:30

◎6月1日、◎7月6日

会場：関西セミナーハウス

参加費：1回1,500円 学生500
 円(抹茶含む)

定員：10名

■**2016年度開発教育セミナー**

第1回「開発教育入門セミナー
 -Think Globally, Act Locally~「足
 もと」と「世界」をつなぐ~<協
 力プログラム>

主催：国際協力機構 関西国際セ
 ンター (JICA 関西)、京
 都市国際交流協会

講師：関西セミナーハウス活動セ
 ンター開発教育研究会他

日時：2016年6月26日(日)
10:00~16:30

会場：kokoka 京都市国際交流会館

参加費：無料(JICA関西へ要申込み)

定員：80名

第2回「地球市民を育むアクティ
 ブラーニング」

講師：橋本 涉さん(東京大学教
 育学部附属中等教育学校)

日時：2016年7月9日(土)16:00
 ~10日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：10,500円(1泊2食込)